

中国における 18 世紀ロシア文学研究について

呉 楠

はじめに——中国におけるロシア文学研究の現状について——

中国におけるロシア文学研究は清朝末期から現在に至る約一世紀の間に未熟な状況から徐々に成熟してきた。特にこの 20 年について言えば、飛躍的に発展し、かなりの成果が見られる。¹ 古代から現代までの作家と作品について幅広く研究され、また、文学理論、文学史、作家作品、文体、流派など、その領域も多岐にわたり、かつ様々な手法や視点から行われている。その詳細については、『二十世紀中露文学関係』、『中国におけるロシア・ソ連文学理論についての過去 100 年間の歴史回想と文化思考』などの研究書で紹介されている。

しかしながら、この 20 年の中国におけるロシア文学研究の中心は、20 世紀の文学に関する研究にある。この傾向はロシア文学研究に限らず、中国における外国文学研究全体の一般的傾向である。また、外国文学の分野で特に注目されているのは理論研究で、ロシア文学研究においても同様の傾向がみられる。

進展を見たロシア文学研究の主な方向性をまとめると、七種類に分けられる。すなわち、文化角度の研究、作家研究、白銀時代文学研究、当代文学研究、中露文学研究、バフチン理論研究、20 世紀のロシア文学の枠組みの検討である。²

その他の時代の研究に関しては、19 世紀のロシア文学では、中国で人気のあるトルストイ、ドストエフスキー、ツルゲーネフ、チェーホフ、ゴーゴリなどの作家についての研究著作が多く、18 世紀ロシア文学に関する研究はわずかである。

前世紀末におけるロシア文学研究で注目されるのは二つの新しい傾向であると言えよう。それは文学と哲学の視点から文学史を見ようとするものと、現代の多様な文化的価値観から古典を改めて見直そうとするものである。³

さらに、1990 年代末以降はロシア文学と宗教との関係に関する研究への関心が高まり、その種の著作が数多く出版されているが、それには二つの異なる観点がある。一つの観点はロシア文学の本質をその宗教性に求めるもので、もう一つの観点は、ロシア文学と宗教

¹ 陈建华「論中国ロシア・ソ連文学研究の学術歷程」『外国文学研究』2006 年 04 期。

² 石南征「中国ロシア文学研究会学術検討会と理事会 会議文献」『ロシア語言語文学研究』人民文学出版社、2002 年、496 頁。

³ 張建华「ロシア文学に関する二つの問題」『ロシア研究』2001 年 04 期。

(東方正教)との密接な関係は認めるが、東方正教からのみ論じることを過ちであるとするものである。両者の間ではしばしば論争が起こるが、いずれもロシア文学の文学史の研究やロシア古典作家の創作に関する研究に、新しい方法、観点、資料を提供しており、ロシア文学研究における発展かつ深化であるとみなされている。⁴

以上、中国におけるロシア文学研究の現状についての全体像を大まかに述べた。ここからは、表題に沿って18世紀ロシア文学に関する研究について具体的に述べていきたい。時間的制約や調査方法など様々な面から、内容的に不十分な点が多々あると思われるが、中国における18世紀ロシア文学研究についてのおおよその状況がご理解いただければ幸いである。

上述したように、18世紀文学の代表作家と作品についての研究著作や論文は極めて少ないが、現在までに出版されたわずかな資料や研究書を挙げ、それについて述べることにする。まず、18世紀のロシア作家と作品についての個別の研究著作と論文、比較文学、歴史、思想など多様な視点からとらえた18世紀ロシア文学に関する著作、文学史的研究の視点からとらえた18世紀ロシア文学に関する著作という三種類に分けて取り上げることにする。〔 〕内に研究著作および論文の日本語訳を付した。

〔1〕18世紀のロシア作家とその作品についての研究著作および論文

1. 冯维辛 (1744–1792) (フォンヴィージン) に関するもの

(1) 冯维辛, 格里鲍耶陀夫, 果戈理, 苏霍沃-柯贝林 (侯焕因, 李锡胤, 满涛, 林耕译) 《冯维辛 格里鲍耶陀夫 果戈理 苏霍沃-柯贝林戏剧选》人民文学出版社, 1997年

〔フォンヴィージン, グリボエードフ, ゴーゴリ, スホヴォ=コブイリン (侯焕因, 李锡胤, 满涛, 林耕译) 『フォンヴィージン, グリボエードフ, ゴーゴリ, スホヴォ=コブイリン演劇集』人民文学出版社, 1997年〕

この本は四人の作家たちの演劇作品を収めた、古典的なロシア演劇, 喜劇集である。

(2) 冯维辛 (孟广钧译) 《冯维辛喜剧两种》辽宁教育出版社, 2003年

〔フォンヴィージン (孟广钧訳) 『フォンヴィージンの二つの喜劇』遼寧教育出版社, 2003年〕

⁴ 任光宣「ロシア文学研究の発展と深化—二十世紀九十年代末のロシア文学と宗教と関係についての研究に関する管見」『当代外国文学』2001年04期。

フォンヴィージンの『旅団長』、『親がかり』という二つの演劇作品が収められている。

- (3) 陈松岩「《纨绔少年》的文化解读」《国外文学》2004年01期
〔陈松岩『親がかり』の文化的解説』『国外文学』2004年01期〕

2. 拉吉舍夫（1749–1802）（ラジーシチェフ）に関するもの

- (1) 吴育群《拉吉舍夫》沈阳辽宁人民出版社，1988年
〔吴育群『ラジーシチェフ』瀋陽遼寧人民出版社，1988年〕
- (2) 拉吉舍夫（汤毓强，吴育群，张均欧译）《从彼得堡到莫斯科旅行记》北京外国文学出版社，1982年
〔ラジーシチェフ（湯毓強，吳育群，張均歐訳）『ペテルヴルグからモスクワへの旅』北京外国文学出版社，1982年〕
- (3) И. Я. 施潘诺夫《拉吉舍夫的社会政治和哲学观点》中国人民大学研究部编译室，中国人民大学，1953年
〔スファンノフ『ラジーシチェフの社会政治と哲学の観点』中国人民大学研究部編集室，中国人民大学，1953年〕
- (4) 张建华《从拉吉舍夫到巴枯宁：俄国先进知识分子的心路历程》中国社科出版社，1999年
〔张建华『ラジーシチェフからバクーニンまで：ロシア先進のインテリゲンチアの心の歷程』中国社科出版社，1999年〕

3. 罗蒙诺索夫（1711–1765）（ロモノーソフ）に関するもの

- (1) 葛新生《罗蒙诺索夫》中国少年儿童出版社，2003年
〔葛新生『ロモノーソフ』中国少年儿童出版社，2003年〕

4. 杰尔查文（1743–1816）（デルジャーヴィン）に関するもの

- (1) 曾思艺「现实生活中的人之歌—杰尔查文的诗歌创作」《上海师范大学学报 社会科学版》2003年03期
〔曾思艺「現実生活の中の人々の歌—デルジャーヴィンの詩歌の創作」『上海師範大学学報（哲学社会科学版）』2003年03期〕

(2) 黄春霞「现实与良知的苦苦挣扎—杰尔查文评歌解读」《郑州航空工业管理学院学报(社会科学版)》2006年02期

〔黄春霞「現実と良知の苦闘—デルジャーヴィンの詩歌の解説」『郑州航空工业管理学院学报(社会科学版)』2006年02期〕

5. 普罗科波维奇(1681-1736) (プロコポーヴィチ) に関するもの

(1) 刘祖熙「俄罗斯思想与俄罗斯使命」『中国世界史研究网』中国社会科学院世界历史研究所世界历史数字化研究部, 2003年11月11日

〔刘祖熙「ロシア思想とロシア使命」『中国世界史研究ウェブサイト』中国社会科学院世界歴史研究所世界歴史数字化研究部, 2003年11月11日〕

以上が個別の作家とその作品に関する研究であるが, 18世紀ロシア文学の代表的な作家とその作品については, 比較文学, 歴史, 思想など多様な視点からの著作においても紹介されている。

〔2〕比較文学, 歴史, 思想など多様な視点からとらえた18世紀ロシア文学に関する著作

(1) 刘宁《俄国经典散文/外国经典散文丛书》上海文艺出版社, 2005年

〔刘宁『ロシア古典的な散文・外国古典的な散文』上海文芸出版社, 2005年〕

この本には多くの外国文学作品, 優れた散文作品, 主としてロシアの古典的な散文が収められているが, その中に18世紀の代表作家ラジーシチェフ, カラムジーンの作品も含まれている。

(2) 潘德礼《俄罗斯》北京社会科学文献出版社, 2005年

〔潘德礼『ロシア』北京社会科学文献出版社, 2005年〕

第六章「教育, 科学, 文芸, 衛生」の第三節「文学芸術」の部分で, スマローコフの悲喜劇, ロモノーソフの頌詩, カンテミールの諷刺詩, デルジャーヴィンの詩歌について論じている。

(3) 飞白「俄罗斯・东欧」《世界诗库》第5卷, 广州花城出版社, 1994年

〔飞白「ロシア・東欧」『世界詩集』第5卷, 广州花城出版社, 1994年〕

この詩集の中に年代順に 18 世紀の代表作家、トレジャコフスキイ、カンテミール、ロモノソフ、スマローコフ、デルジャーヴィン、ラジーシチェフ、カラムジーンの詩が紹介されている。

(4) 白文昌「普希金与俄国小说叙事方法的更新」《俄语语言文学研究》2005 年 03 期

〔白文昌「プーシキンとロシア小説の叙事方法の変化」『ロシア言語文学研究』2005 年 03 期〕

プーシキンのロシア小説の叙事方法の変化への貢献について論じたものだが、その中で 19 世紀以前のロシア小説の叙事方法の変化を詳しく分析している。特に、18 世紀ロシア小説の叙事方法について分析し、カラムジーン (Н.М.Карамзин,1766–1826) の『哀れなリーザ』とエミン (Ф.А.Эмин,1735–1770) の小説における描写方法の欠如を指摘している。また、カラムジーン『哀れなリーザ』とプーシキンの『駅長』の叙事方法を比較し、19 世紀以前のロシア小説の叙事方法の乏しさに対して、プーシキンの叙事方法の新しさについて論じている。

(5) 陈建华「俄罗斯文学先驱者的东方想象」《二十世纪における中国とロシア文学の関係》高等教育出版社, 2002 年

〔陈建华「ロシア文学先駆者の東洋想像」『二十世纪における中国とロシア文学の関係』高等教育出版社, 2002 年〕

この論文は文学史の部分で紹介されている『二十世纪における中国とロシア文学の関係』の第一章の第一節である。この論文は主に中世および 18 世紀のロシア作家たちの中国、中国文化に対する関心、作品の中に反映されている中国印象、中露の早期の文化交流などについて書かれており、18 世紀ロシア作家と中国の関係について極めて詳細に紹介されている。ノヴィコフが雑誌の中で中国思想を紹介していること、フォンヴィージン、ラジーシチェフ、デルジャーヴィン、ヘラスコフの作品の中では中国思想家孔子の思想、著作を紹介し、孔子を尊敬、賛美していることなどにも触れ、ロモノソフとデルジャーヴィンの作品の中で中国文化について書かれている部分、また、作家たちによる中国文学作品の翻訳などについても詳しく書かれている。

それでは中国におけるロシア文学史の著作の中で、18 世紀ロシア文学はどういうふうに取り上げられているだろうか。

〔3〕 文学史的研究の視点からとらえた 18 世紀ロシア文学に関する著作

20 世紀に中国のロシア文学研究者および教育の分野における教育者や学者によって書かれた『ロシア文学史』は数多い。以下の中で最も影響を持つものをいくつかを紹介してみよう。

(1) 曹靖华《俄苏文学史》河南教育出版社，1992 年

〔曹靖华『ロシア・ソ連文学史』河南教育出版社，1992 年〕

この本は中国の有名な教育者、翻訳家、また作家でもある曹靖华の下で、北京大学ロシア言語語文学系研究室の教師たちによって書かれた『ロシア・ソ連文学史』である。この本の第二章で 18 世紀ロシア文学を紹介している。

(2) 郑体武《俄罗斯文学简史》上海外语教育出版社，2006 年 2 月

〔郑体武『ロシア文学簡史』上海外语教育出版社，2006 年 2 月〕

18 世紀ロシア文学についてかなり詳しく紹介している本である。古代ロシア文学，18，19，20 世紀ロシア文学という四編に分かれており，各時代の文学を概観し，文学流派，作家作品を紹介した本である。この本の第二編「18 世紀ロシア文学」の第一章「18 世紀上半期ロシア文学」と第二章「18 世紀下半期」で 18 世紀ロシア文学を詳しく紹介している。

第一章の第一節「概観」では 18 世紀ロシア文学の発展過程，特徴，文学流派（古典主義，感傷主義）について，詳細に紹介している。特に，ロシア古典主義と西欧古典主義を比較し，ロシア古典主義の特徴を分析している。また，カンテミールの諷刺詩，トレジャコーフスキイの詩法改革，ロモノーソフの頌詩，言語改革，詩法改革などについても詳しく述べている。第二節「スマローコフ」では，彼の悲劇について述べ，創作の特徴を分析している。

第二章の第一節「概観」では 18 世紀下半期の詩歌，演劇における変化，感傷主義について紹介し，フォンヴィージンの『旅団長』，『親がかり』やラジーシチェフの『ペテルヴルグからモスクワへの旅』，エミン，ヘラスコフ，ドミートリエフ，カラムジーンを紹介している。第二節「デルジャーヴィン」でデルジャーヴィンの数多くの詩歌を分析しながら，彼の詩歌創作の特徴を示している。第三章「カラムジーン」では『ロシア人旅行者の手紙』を分析し，また『哀れなりザ』と『貴族の娘ナターリヤ』を比較しており，カラムジーンの詩歌にも触れている。

- (3) 任光宣《俄罗斯文学简史》北京大学出版社，2006年
〔任光宣『ロシア文学簡史』北京大学出版社，2006年〕

現在、ロシア文学の発展には新しい局面が現れており、ロシア文学史の教育でも新しい時期に入り、昨年北京大学の教師によって書かれた、この『ロシア文学簡史』が出版された。任光宣は北京大学の教授であり、中国ロシア文学研究会の副会長である。この本は現在中国大学のロシア文学史の教材となっている。

以下の目次に示されているように、第二章では18世紀ロシア文学について詳しく紹介している。第一節は18世紀ロシア詩歌であるが、ここでは18世紀ロシア詩歌の発展概観、カンテミール、デルジャーヴィン、ロモノーソフなどといった詩人とその作品が紹介されている。第二節は18世紀ロシア小説である。この節では18世紀ロシア小説の発展概観、カラムジーン、ラジーシチェフなどの作家と作品が紹介されている。第三節は18世紀ロシア演劇である。この節では18世紀ロシア演劇の発展概観、スマローコフ、フォンヴィーゲンなどの作家と作品が紹介されている。

目次

第二章 18世紀ロシア文学

(一) 18世紀ロシア詩歌

- 第一節 18世紀ロシア詩歌の発展概観
- 第二節 カンテミール (1708–1744)
- 第三節 デルジャーヴィン (1743–1816)
- 第四節 ロモノーソフ (1711–1765)

(二) 18世紀ロシア小説

- 第一節 18世紀ロシア小説の発展概観
- 第二節 カラムジーン (1766–1826)
- 第三節 ラジーシチェフ 1749–1802)

(三) 18世紀ロシア演劇

- 第一節 18世紀ロシア演劇の発展概観
- 第二節 スマローコフ (1717–1777)
- 第三節 フォンヴィーゲン (1745–1792)

- (4) Л.И.库拉科娃《十八世纪俄罗斯文学史》北京俄语学院，1958年
〔クラコヴァ『十八世紀ロシア文学史』北京ロシア語学院，1958年〕

現在絶版となっており、入手が困難であるため、参照することができなかった。今後調

呉 楠

査を続けたいと思う。

- (5) 胡日佳《俄国文学与西方 审美叙事模式比较研究》学林出版社，1999年
〔胡日佳『ロシア文学と西洋 審美叙事様式の比較研究』学林出版社，1999年〕

東方と西洋文化の融合の視点から、西欧文学（文学評論，哲学，美学）が19世紀ロシア作家たちの創作に与えた影響について書いている本であるが，第二章では，以下の目次からわかるように，18世紀ロシア文学と西欧の影響について詳しく分析している。詩歌，演劇，小説，文学理論四節に分かれており，18世紀ロシアの代表作家の作品の流儀，作品について詳細に分析している。

目次

第二章 18世紀ロシア文学と西方の影響

- 第一節 カンテミール，ロモノーソフ，デルジャールヴィン，ラジーシチェフ，ヘラスコフ及び古典主義の詩歌の創作
- 第二節 スマローコフ，フォンヴィーゲン及び古典主義の演劇の創作
- 第三節 エミーン，カラムジーン，ラジーシチェフ及び感傷主義小説の創作
- 第四節 ロシア文学言語と文学理論におけるトレジャコーフスキイ，ロモノーソフ，スマローコフ，カラムジーンの貢献

- (6) 瞿秋白《俄国文学史及其他》复旦大学出版社，2004年
〔瞿秋白『ロシア文学史とその他』复旦大学出版社，2004年〕

瞿秋白（1899－1935）は優れた文芸理論家，作家，翻訳家であり，中国におけるロシア文学の翻訳の分野の先駆的人物である。

この本には彼が1921-1922年にロシアに滞在している時に書いた『ロシア文学史』が収められ，内容はロシアの民間文学，古代文学から，プーシキン，トルストイ，ドストエフスキーなどの文学巨匠にまで及ぶ。十月革命前までを扱った完成されたロシア文学史で，18世紀の文学について詳しく紹介している，ロシア文学の研究にとってよい資料である。

- (7) 周作人《近代欧洲文学史》团结出版社，2007年
〔周作人『近代ヨーロッパ文学史』团结出版社，2007年〕

この本は最近発見された周作人（魯迅（周樹人）の弟）の著作で，初めて出版されたも

のである。1917年9月、周作人が北京大学の文科教授として、教鞭を取っていた時の北京大学における講義の教材である。彼がこの本を書いた目的は、客観的にヨーロッパ文学を述べるためではなく、中国人を啓蒙するためである。この本は中国啓蒙文学的な著作であり、文学形式で書かれた自然人性論の教科書であるとみなされる。第三章「十八世紀」で、18世紀ロシア文学を論じている。

(8) 李赋宁《欧洲文学史》商务印书馆，2003年

〔李赋宁『ヨーロッパ文学史』商務印書館，2003年〕

北京大学と他の研究機関のあらゆる外国文学分野の専門家約百人によって書かれた文学史であり、20世紀中国のヨーロッパ文学史研究の総体的な水準を示すものである。中国のヨーロッパ文学史研究の領域、中国の外国文学の教育と研究分野における權威性を持つ参考書とみなされる。古代、中世、ルネサンス、17世紀、18世紀、19世紀、20世紀という七つの時期に分かれ、内容的にはそれぞれの時代の社会背景、文学の総体的な状況と主な文学潮流を概観し、各章節で各国文学を紹介している。そのひとつとして18世紀ロシア文学が紹介されている。

(9) 陈建华《二十世纪中俄文学关系》高等教育出版社，2002年

〔陈建华『二十世紀における中国とロシア文学の関係』高等教育出版社，2002年〕

中国教育部によって推薦されている大学院生のための教材である。9章に分かれており、時代順に、清朝末期から20世紀90年代まで、中国とロシアの文学関係の発展の状況について詳しく紹介したものであり、中国とロシア文学の関係、翻訳の過程、作家、作品の比較、あらゆる流派や思潮の融合などの問題について論じている。

〔4〕 その他の資料

以上18世紀ロシア文学について主な研究資料を挙げたが、以下に18世紀文化についての資料を挙げて筆を置くことにする。

(1) 杜查理《叶卡特琳娜女皇》中国人事出版社，1996年

〔ドチャリ『エカテリーナ女帝』中国人事出版社，1996年〕

(2) 卡·瓦利舍夫斯基（贤居译）《风流女皇叶卡特琳娜二世传》团结出版社，2006年

- [カ・ワリセフスキ (贤居訳) 『風流女帝エカテリーナ二世』 团结出版社, 2006 年]
- (3) 姚海《俄罗斯文化之路》浙江人民出版社, 1992 年
[姚海『ロシア文化の道』 浙江人民出版社, 1992 年]
- (4) 孙成木《俄罗斯文化 100》东方出版社, 1995 年
[孙成木『ロシア文化 100 年』 東方出版社, 1995 年]
- (5) 尤里·谢尔盖耶维奇·里亚布采夫 (Рябцев, Ю.С.) (张冰 王加兴译)《千年俄罗斯》
生活·读书·新知三联书店, 2007 年
[リャプツェフ (张冰 王加兴訳) 『ロシアの千年』 生活・読書・新知三聯書店, 2007 年]
- (6) 苏联科学院历史所列宁格勒分所《俄国文化史纲 (从远古到 1917 年)》商务印书馆,
1994 年
[ソ連科学院歴史所レニングラード支部『ロシア文化史綱要 (古代から 1917 年まで)』
商務印書館, 1994 年]
- (7) 孙成木, 刘祖熙《俄国通史简编》人民出版社, 1986 年
[孙成木, 刘祖熙『ロシア通史簡編』 人民出版社, 1986 年]